【1-c】カリキュラムマップ　（歴史遺産学科）

芸術学部　ディプロマ・ポリシー		
人間力 自立したひとりの人間として 生きるための基盤の力	知識	人間、社会、自然等に関する知識・情報を体系的に収集・理解できる
	思考力	正しい情報をもとに、物事を論理的に考えることができる
	行動力	自らを律しながら、設定した課題に粘り強く継続的に取り組むことができる
	倫理観	自らの良心に従い、社会のために芸術･デザインの力を活かすことができる
創造力 芸術の力を 社会のために活かす	発想力	豊かな感性からの直感を、概念･イメージなどにまとめることができる
	構想力	概念･イメージなどを紡ぎ合わせ、テーマ・仮説として練り上げることができる
	表現力	テーマ・仮説などを、様々な媒体によって可視化し提案することができる

◎　DPを達成するために特に重要
○　DPを達成するために重要
△　DPを達成するために望ましい

科目名	必修/選択	履修年次	講義/演習	単位数	ナンバリング	開講期	知識	思考力	行動力	倫理観	発想力	構想力	表現力	テーマ	授業概要	到達目標
歴史遺産学概論I	必修	1･2･3･4	講義	2	2LTR1L0	前期	○	△		◎				歴史文化学入門	文化財の保存修復にあたっては、それらが生み出された歴史文化的背景を理解することが必要である。本講義では、①歴史的視座からものごとを把握し理解を深めるための方法論、②日本の伝統文化の概論とその研究法、③地域の歴史文化を考究する方法論について、事例を交えながら考究する。	①歴史的視座から物事をとらえること、特に史資料による研究方法の基礎を理解する。②伝統文化について基礎的知識を獲得し、その現代的価値について積極的に考える姿勢を身につける。③自身の居住地等に関する歴史文化について、歴史遺産を通じて考究する姿勢を身につけ、考えを文章にまとめる。
歴史遺産学概論II	必修	1･2･3･4	講義	2	2LTR1L0	後期	○	△		◎				文化財保存修復入門	日本はじめ世界における文化財保護の考え方の変遷や、文化財を保存修復していくための方法論の基礎をまなぶ。また、博物館等における実践的活動の紹介や、戦争・自然災害時における文化財保護の取り組み事例を学ぶことを通じて、文化財保存修復活動の現代的意義について考究する。	①文化財保護思想の発祥と展開について理解し、文化財保護法や世界遺産条約等の諸制度に関する基礎知識を獲得する。②文化財保存修復の基礎となる各種調査法の概要を理解する。③現代における文化財保存修復の取り組みについて幅広い観点から理解し、その現代的意義について自身の見解を文章にまとめる。
京都地誌I	必修	2･3･4	講義	2	2KNW2L0	後期	◎	○	△					地図･史料にみる京都地誌 ー都市構造と空間認識を中心にー	京都の都市構造は長い年月をかけ、様々な変遷をたどりながら形成されている。地図や史料を用いながら、京都の地誌を、主に都市構造と空間認識を中心に、歴史的にたどっていく。	京都の歴史地理的な知識を取得し、京都に関する理解を深め、京都の歴史遺産との関わり方を積極的に考えられる。自らフィールドに出て、京都の町と直に触れる機会を設け、情報を集めてそこから考えることを期待する。
京都地誌II	必修	2･3･4	講義	2	2LGC2L0	後期	○	◎	△					地図･史料にみる京都地誌 ー都市構造と空間認識を中心にー	京都の都市構造は長い年月をかけ、様々な変遷をたどりながら形成されている。地図や史料を用いながら、京都の地誌を、主に都市構造と空間認識を中心に、歴史的にたどっていく。	京都の歴史地理的な知識を取得し、京都に関する理解を深め、京都の歴史遺産との関わり方を積極的に考えられる。フィールドに出た時の行動の仕方についても発想できるようにし、広く紹介できるようになる。
人文地理学I	選択	1･2･3･4	講義	2	2LGC2L0	後期	○	◎			△			景観からみる地域らしさ	景観は地域の自然の中に暮らす人々の歴史や文化で紡ぎだされる。「地域らしさ」のある景観は「文化的景観」という文化財の1つとしてとらえられるようになった。この景観から歴史・文化を読み解くことの面白さと、文化財としての景観である文化的景観を調査・評価・活用していくことの重要さについて考える。	景観に刻まれた歴史を正しく読み解くことができる能力を身に付けるとともに、文化的景観についての正しい理解を身につける。
人文地理学II	選択	1･2･3･4	講義	2	2LGC2L0	後期	○	◎			△			地図と景観	地理学の基礎資料の1つである地図の歴史と、歴史遺産研究における地図利用の有効性を論じる。	地図の歴史を知り、地図を用いて過去の景観や現在の景観を正しく理解できる能力を身につける。
自然地理学	選択	2･3･4	講義	2	2LGC2L0	前期		◎			○		△	自然と人間の共役を実感する地理学的思考技術の修得	身近な生活環境としての自然について講義する。今日における環境問題を自然と人間との共役的応答としてとらえ、自然史の観点から考える。	複雑な問題に対して多角的に捉え、自ら考える能力を養う。そのために必要なセンスとして、身近な自然を対象とし、地形、気候、生物、人々の営みから自身につながる問題の発見力、想像力、表現力を高める。
アジア史	選択	2･3･4	講義	2	2KNW2L0	前期	◎	△		○				東アジアの人と文化の交流	東アジアの文化および日本との交流の歴史を知ることで、日本社会の多様性を知り、未来への展望を持つ多文化共生の意味を考える。	日本の歴史と社会をいつの時代でも東アジアとの関連でとらえること、日本人や日本文化の多様性を認識できる視野をもつこと。
外国史	選択	2･3･4	講義	2	2LGC2L0	前期	○	◎		△				西洋史と世界遺産	「世界遺産」にまつわる歴史を中心に、諸外国の成り立ち、影響についての基礎的な知識を学ぶ。	1. 世界遺産についての歴史的知識を獲得する。 2. 諸外国の歴史的な成り立ちを知り、現代世界の諸問題について深く洞察できるようになる。
遺跡修景論	選択	3･4	講義	2	2KNW3L1	前期	◎	○				△		遺跡の保存･整備･活用	考古遺跡を将来にわたって適切に保存･活用するための手法の一つとして遺跡の修景整備がある。日本における事例を中心に、世界各地での事例を紹介しつつ、遺跡の保存･整備･活用に関する諸問題について考究する。	①遺跡修景の代表的事例について基礎的知識を得る。 ②遺跡修景の理念と技法の史的展開について、基礎的知識を得る。 ③今後の遺跡修景のあり方について、諸事例を踏まえ具体的な提案を行うことができる。
考古学I	必修	1･2･3･4	講義	2	2KNW1L1	前期	◎				△	○		考古学の世界と日本の古代の技術 考古学の方法と研究の広がり	はじめに著名な古代遺跡の調査を紹介しながら考古学の世界を案内し、その上で日本古代の文化、資源に対する人の活動などを解説する。 モノ(物質文化)を扱う学問としての具体的手法(発掘や分析方法)や歴史研究における役割について講義する。	古代の人類の歴史がどのような方法で明らかにされてきたかを理解できるようになること。 過去人類の残した物質文化をもとにいかなる歴史復元が可能か、考古学の調査･研究の基礎を理解することを目指す。
考古学II	必修	1･2･3･4	講義	2	2KNW2L1	後期	◎				△	○		年代を知る方法と古代の技術 歴史時代の考古学の世界	暦のない時代の年代を知る方法、古代の装飾技術や製陶の技術などを紹介しながら考古資料の調査法を解説する。 モノ(物質文化)を扱う学問としての具体的手法(発掘や分析方法)や歴史研究における役割について講義する。	考古資料から年代や古代の技術を復元する上で、多くの視点と方法があることを理解できるようになること。 過去人類の残した物質文化をもとにいかなる歴史復元が可能か、とくに歴史時代の考古学調査･研究の方法を理解することを目指す。
コンピュータ演習	選択	1･2･3･4	演習	2	2EXP1S1	前期				△		○	◎	レポート･プレゼンテーションのためのパソコンスキル習得	歴史遺産に関する情報を題材に、ワード、エクセル操作を習得し、レポート作成までできるようになる。また、プレゼンテーションで必要なパワーポイントの作成、操作方法を身につける。	レポート作成のための必要最低限のソフト操作技術を身につける。あわせて、レポートを発表するための技術を身につけ、アウトプット方法を習得する。
文化財庭園論	選択	1･2･3･4	講義	2	2LGC2L1	後期	△	◎				○		文化財庭園の保存と修復・活用	世界の庭園の代表的な様式を概説し、その保存と修復・活用の現状と課題について文献調査や発掘調査、修理事業の成果をもとに考究する。	1. 庭園の諸様式についての基礎知識を身につけ、見分ける力を身につける。2. 日本の代表的な文化財庭園について基礎知識を獲得し、その特徴を理解する。3. 文化財庭園の保存と活用について諸事例を学び、現状の課題を把握して解決策の提案ができる。
文化財建造物論	選択	1･2･3･4	講義	2	2LGC2L1	後期		◎				○	△	文化財建造物の保存と修復・活用	世界の歴史的建造物の代表的な諸様式を概説し、その保存と修復・活用の現状と課題について、文献調査や発掘調査、修理事業の成果をもとに考究する。	1. 建築の諸様式についての基礎知識を身につけ、見分ける力を身につける。2. 日本の代表的な文化財建造物について基礎知識を獲得し、その特徴を理解する。3. 文化財建造物の保存と活用について諸事例を学び、現状の課題を把握して解決策の提案ができる。
仏教芸術論	選択	1･2･3･4	講義	2	2KNW1L1	前期	◎				○	△		仏教絵画･仏像を学ぶ	仏教芸術の歴史的展開について、特に絵画･彫刻の作例を系統的に学ぶことによって学び、文化遺産としての意義を考える。	①仏教思想を背景とした芸術の全容について基礎知識を獲得する。②日本の絵画史と彫刻史に関する基礎知識を獲得する。③仏教絵画、仏像の時代による様式及び歴史的･思想的背景を学び、それらを見分けるポイントを理解する。④仏教芸術の文化遺産としての価値について、自身の考えを文章にまとめる。
装こう文化財論	選択	1･2･3･4	講義	2	2KNW2L1	後期	◎	○	△					装潢文化財基礎	装こう文化財は絵画作品と書跡・典籍・古文書作品に大きく分かれる。これらの文化財は作品単体で存在する訳ではなく、装丁を伴った伝統的な形態で存在している。それぞれの素材や構造の歴史的変遷を辿り、その保存修復の考え方や技術などについて概説する。	書跡・典籍・古文書や絵画の素材や構造について知り、それを保存していく意義と具体的な修理方法について理解できるようになる。
保存科学論	選択	1･2･3･4	講義	2	2LGC1L1	前期		◎			○	△		正倉院宝物の保存と構成材料	正倉院宝物の保存に関する、過去および現在の取り組み、あるいは現在宝物の置かれている保存環境(空気環境･微虫害状況･温湿度環境)について講義する。また正倉院宝物に用いられた素材についても詳しく講義する。	正倉院宝物の保存方法･保存環境および正倉院宝物に用いられた各種材料について知識を蓄積することにより、実際に対処すべき文化財と対面した場合、それを参考にして自身で方法を探る。
民俗文化財論	選択	1･2･3･4	講義	2	2LGC1L1	前期		◎			○	△		生活資料としての民俗文化財	衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋など、有形･無形の民俗文化財について、代表的な事例を通じて学ぶ。また、これらによって日本の生活の推移を理解するための方法論について学ぶとともに、その保存修復に関する基礎知識を学ぶ。	①民俗文化財の種類や特徴、およびその保存修復技術について基礎知識を獲得する。②民俗や行事について歴史的な背景や変遷を知り、現在の存在意義を考える。③現代社会において民俗を正しく理解することの意味について各自でよく考え、文章にまとめる。
宗教学概論	選択	2・3・4	講義	2	2KNW2L2	前期	◎	○			△			宗教について「考える」	「宗教」とは何なのか。「宗教」について、様々な角度から考察を加える。	「宗教学」とはどういった学問分野なのか、「宗教」とはいったい何なのか、「宗教」をめぐる様々な問題はどうして起こっているのか、これらについて自ら思考し、独自の見解を持つ。
日本史特論I	選択	2・3・4	講義	2	2LGC2L2	前期		◎			○	△		原始・古代の歴史を考古学から学ぶ	原始・古代の歴史について、遺跡や残されたモノから読み解き、歴史を文化について考究する	日本の縄文～古墳時代の基礎的知識を身につけるとともに、遺跡・遺物の変化を読み解き、時系列化することで歴史を理解する力を養う。
日本史特論II	選択	2・3・4	講義	2	2LGC2L2	後期		◎			○	△		世界遺産から世界の文化財の保存修復の理念や課題を学ぶ	「世界遺産」を通じて、歴史遺産の保存や修復について学び、その考え方や保存・修復技術及び課題について理解を深める	「世界遺産」の理念や仕組みを学び、世界遺産を継承してゆく上で必要な保存の考え方や修復技術を理解し、現実の歴史遺産の保存に関する具体的課題について自分の考えを導き出す力をつける。
日本史特論III	選択	2・3・4	講義	2	2LGC2L2	前期		◎			○	△		文献史学の基礎を学び、歴史資料による研究方法の基礎を身につける	文献史料を講読することから、文献史料を読む力を養うことを目標とする。	文献史料を正確に読解できるようになる。 辞書類を適切に利用できるようになる。
日本史特論IV	選択	2・3・4	講義	2	2LGC2L2	後期		◎			○	△		日記に見る数寄芸能	古代から近世までの記録としての日記にの中から、特に「数寄芸能」に関わる記事を取り上げる。それらを読解し、記録史料に親しむとともに、各時代の歴史的･文化的状況を考える基本を修得する。	各時代の歴史的･文化的状況を考える基本を修得し、またバーチャルに歴史を想起できる想像力を養う。
史料講読I	必修	2･3･4	講義	2	2LGC2L2	前期	○	◎			△			近世の文献史料を読解する	歴史研究において文献史料はもっとも情報量の多い資料である。文献史料を読解することで、過去の情報を知ることができる。近世の様々な文献史料を読みこなすことにより、その読解力の基礎を身に付けることを目標とする。	近世の文献史料の読解力を身に付ける。調査方法の基礎を身につけ、すぐには判らないこと、判断が付かないことに対して、考える力をつける。
史料講読II	必修	2･3･4	講義	2	2LGC2L2	前期	○	◎			△			近世の文献史料を読解する	近世の様々な文献史料を読みこなすことにより、読解力を更に深めることを目標とする。	近世の文献史料の読解力を身に付ける。すぐには判らないこと、判断が付かないことに対して粘り強く調べ、答えを導き出そうとする姿勢を身に付ける。
史料講読III	選択	2・3・4	講義	2	2ACM2L2	後期		○	◎	△				古代･中世の古文書に親しむ	古文書は過去の出来事を知るための重要な手がかりである。日本の古代･中世における古文書を教材として、その様式論･機能論について学ぶ。	古文書学の理解を深める。 1.様式論･機能論の体系的把握。 2.古文書学と歴史学･文化財学との関係性の有機的理解。
史料講読IV	選択	2・3・4	講義	2	2ACM2L2	後期		○	◎	△				古代･中世の古文書を読解する	古文書は過去の出来事を知るための重要な手がかりである。日本の古代･中世における古文書を教材として、その文字情報の読解に取り組む。	古文書の読解能力を身につける。 1.和化漢文を訓読する能力の修得。 2.くずし字を判読する能力の修得。 3.古文書の内容を理解するうえで必要な調査能力の修得。
フィールドワークI	必修	1･2･3･4	演習	2	2ACM1S2	前期		○	◎				△	現場に立ってみる、無形と有形の歴史遺産	京都の遺跡や社寺、博物館などを実地に訪れ、様々な文化財の見学とレポート作成を通じて歴史的に継承されてきた文化遺産の保存･修復･活用について考究する。	現地調査の心得と方法を学び、文化遺産に対する観察力を身につけること。また観察した内容を簡潔な文章にまとめ、内容を的確に第三者に伝えることができるようになる。
歴史遺産学基礎実習I	必修	1･2･3･4	演習	2	2PLN2S3	後期			○			◎	△	歴史文化総合調査	京都の様々な歴史文化について、グループごとに研究テーマを設定し、現地調査を行ない、成果を発表する。	①歴史遺産の保存や活用に関する研究テーマを導き出す力を養う。②研究目的を達成すに必要な調査計画を立てる地kらを養う。③研究テーマに関して一定の知見をまとめる力を養う。
歴史遺産学基礎実習II	選択	2･3･4	演習	2	2ACM2S3	前期	△	○	◎					古文書・絵画の素材分析および保存科学実験基礎	①日本の紙の種類を識別し、制作（紙漉き）を通じてこれらの特性を理解する。②古文書の損傷に関して、その原因と対処方法を学び、修復に関する基礎実習を行う。③文化財の保存科学に関して、研究の基礎的方法論を学び、各種分析方法の基礎実習を行う。	①日本の紙の種類や物性について理解し、識別法の基礎を身につける。②古文書の損傷についてその原因を解明する方法を学び、保存修復技術の基礎を身につける。③文化財保存科学に関して、各種分析法の基礎理論を理解し、各種分析機器の操作法を身につける。④実験計画・実験ノートの作成を通じ、研究方法の基礎を身につける。
歴史遺産学基礎実習III	選択	2･3･4	演習	2	2EXP2S3	後期	○		△				◎	建築彩色技法ならびに民具の保存修復実習	①寺院建築における彩色の保存修復に関する基礎実習（模写、補彩）②民具を主とした生活資料について、クリーニング・調書作成・保存修復等の基礎的実習を行う。	①模写を通じて日本画の基礎技術を学ぶとともに、建築彩色技術の基礎を身につける。②民具の種類を見分ける力を養い、保存修復の基礎技術を習得する。
歴史遺産プロジェクト演習I	必修	2･3･4	演習	2	2ACM2S3	後期	○		◎			△		歴史遺産の調査・保存・修復・活用に関する課題に取り組む。	歴史文化系、考古学・歴史まちづくり系、文化財保存修復系の３つの領域に分かれ、それぞれに関するプロジェクトにグループワークで取り組む。	①専門領域に関して、調査研究等に関する理論的考察を行い、適切な実施計画を立案し、他社と協同して実行する。②活動成果を文章にまとめ、また公開発表する力を養う
歴史遺産プロジェクト演習II	選択	3･4	演習	2	2EXP3S3	前期				○	△		◎	歴史遺産の調査・保存・修復・活用に関する実践的課題に取り組む。	歴史文化系、考古学・歴史まちづくり系、文化財保存修復系の３つの領域に分かれ、それぞれに関する実践的課題をグループワークで取り組む。	①現代社会から、歴史遺産に関する実践的課題を抽出する力を養う。②専門領域に関して、調査研究等に関する理論的考察を行い、適切な実施計画を立案し、他者と協同して実行する。
歴史遺産プロジェクト演習III	選択	3･4	演習	2	2EXP3S3	後期				○	△		◎	歴史遺産の調査・保存・修復・活用に関する実践的課題の解決に取り組む。	歴史文化系、考古学・歴史まちづくり系、文化財保存修復系の３つの領域に分かれ、それぞれに関する実践的課題の解決にグループワークで取り組む。	①現代社会から、歴史遺産に関する実践的課題を抽出する力を養う。②専門領域に関して、調査研究等に関する理論的考察を行い、適切な実施計画を立案し、他者と協同して実行する。③活動成果を文章にまとめ、また公開発表する力を養う。④成果に対する反応を冷静に受け止め、今後の改善策を講じる力を養う。⑤各自が学んだ知識を活かし、プレゼンテーションなどを通じて、他者への正確な情報伝達方法を身に付ける。
歴史遺産学総合演習I	必修	3･4	演習	3	2CRT3S3	前期		○	△		◎			3回生ゼミ:進級論文作成に向けて	4年次での卒業論文作成にむけて、歴史遺産学における専門的な研究論文作成能力を養うことを目的とする。ゼミに分属し、先行研究の講読、研究テーマおよび研究計画の設定、研究･実験方法の検討を行ない、中間発表会で中間成果を報告する。	先行研究を学ぶことにより、歴史遺産学に関する広範な専門的知識を身につける。ゼミ発表や小レポート作成により、論理的思考と文章表現能力を向上させる。論議や口頭発表により、表現力を向上させる。卒業論文にむけてのテーマを決定する。
歴史遺産学総合演習II	必修	3･4	演習	3	2PLN3S3	後期		△			○	◎		3回生ゼミ:研究論文をまとめ、発表する	「歴史遺産学総合演習I」での成果を発展させ、各自が具体的な研究テーマを設定し、研究論文に取り組む。授業では各自が進行状況を報告し、論議する。	具体的な研究テーマ･研究計画を各自が設定し、進級論文を執筆するなかで論理的思考能力と文章表現力を向上させること。 また、成果について客観的に分析し、到達点と課題を認識し、卒業研究の課題設定を行う。
歴史遺産学総合演習III	必修	4	演習	4	2PLN3S3	前期					○	◎	△	新たな知見をもつ研究論文を執筆する	段階的に蓄積してきた基礎的教養と専門的知識･技術をベースとして、歴史遺産の保存･修復･活用を地域社会において実践することの意義をあらためて認識しつつ、各自がこれに資するに足る「歴史遺産論」を構築するための研究を進める。	課題解決に向けて長期間にわたって計画的に取り組むことで、持続力を身に着ける。的確なデータ収集と分析を行うこととこれに依拠した論述によって論理的思考能力･文章表現力を向上させる。新たな知見を生み出すことによって創造の喜びを得る。
卒業研究・制作	必修	4	演習	4	2LGC3S3	後期	○	◎	○	○	○	○	○	新たな知見をもつ研究論文を執筆し発表する	段階的に蓄積してきた基礎的教養と専門的知識･技術をベースとして、歴史遺産の保存･修復･活用を地域社会において実践することの意義をあらためて認識しつつ、各自がこれに資するに足る「歴史遺産論」を構築し、卒業論文を執筆し発表する。	課題解決に向けて長期間にわたって計画的に取り組むことで、持続力を身に着ける。的確なデータ収集と分析を行うこととこれに依拠した論述によって論理的思考能力･文章表現力を向上させる。新たな知見を生み出すことによって創造の喜びを得る。 卒業論文を完成させることで、課題抽出からアウトプットまでの方法論を身に付ける。